

一般社団法人日本臨床検査医学会 2020 年度に係る定時社員総会 議事録

日時：2021 年 3 月 27 日（土）15：15～16：00

開催方法：Webinar による視聴での開催、

ホスト会場：日本臨床検査医学会事務所 東京都千代田区神田小川町 2-2（〒101-0052）

出席：社員（評議員）出席：4 名、議決権行使：159 名（視聴 63 名）

事務局参加：常任理事（村上正巳理事長、東條尚子副理事長、ㄨ谷直人会計理事、山田俊幸庶務理事）

議事録署名人：村上正巳理事長、松下一之先生

村上正巳理事長が議長となり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面ではなく、オンライン（Webinar）での視聴のみとして、社員は議決権行使（委任状）での参加としたことを説明した。

定時社員総会の決議にあたり、社員数 202 名のところ議決権行使 159 名、出席 4 名を合わせて、163 名で半数を越えるため当会での決議は成立することが報告され、議事が進められた。

そして、2021 年 2 月 18 日に逝去された功労会員の寺井格先生（元酪農学園大学 教授 享年：71 歳）の逝去を悼み、黙祷が捧げられた。

会議の目的事項

決議事項

第 1 号議案 2020 年度事業報告および計算書類承認の件（村上正巳理事長、山田俊幸庶務担当理事、ㄨ谷直人会計理事）

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、事業成績及び財産の状況の推移、監査報告書が提示された。

事業報告については山田俊幸庶務担当理事より報告説明がなされた。

ㄨ谷直人会計理事より計算書類について説明がなされた。

福武勝幸監事より、3 月 3 日に学会事務所において監査を行い、会計帳簿、貸借対照表、事業報告書等に関して適正に処理されており、理事の職務遂行に関して不正な行為はなく、さらには、法令、定款に違反する重大な事実は認められないとの監査報告がなされ、本件は承認された。

閉会

東條尚子副理事長より閉会の言葉があり、2020 年度に係わる定時社員総会は閉会された。

以 上

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2021 年 4 月 26 日

一般社団法人日本臨床検査医学会定時社員総会

議長 代表理事 村上 正巳 ㊟

議事録署名人 松下 一之 ㊟

2020 年度事業報告

1. 会議

総会	11月20日		
臨時社員総会	11月19日		
定時社員総会	3月28日		
理事会	3月28日	7月3日	10月9日
常任理事会	3月9日	6月24日	10月2日

2. 学術集会 第 67 回学術集会 11 月 19 日～11 月 22 日（盛岡）：ハイブリッド開催

3. 刊行物

機関紙 第 68 巻 1～12 号 Supplement 第 68 巻補冊

4. 臨床検査専門医、管理医、研修施設 認定

臨床検査専門医認定試験	9月12日～13日	（東京医科歯科大学医学部）
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日	
認定研修施設の認定・更新	1月1日、7月1日	
臨床検査管理医講習・認定試験	10月12～25日	（オンライン）

5. 会員数

	2018 年度 (12/31 会費納入済数)	2019 年度 (12/31 会費納入済数)	2020 年度 (12/31 会費納入者数)
総会員数	3,465 名 (2,698 名)	3,244 名 (2,702 名)	3,418 名 (2,462 名)
正会員	3,174 名 (2,472 名)	3,013 名 (2,503 名)	3,155 名 (2,289 名)
(評議員)	(231 名) (231 名)	(219 名) (215 名)	(209 名) (201 名)
学生会員	127 名 (68 名)	65 名 (46 名)	93 名 (55 名)
名誉会員	38 名	38 名	37 名
功労会員	126 名 (120 名)	128 名 (115 名)	133 名 (81 名)
賛助会員	35 社 (35 社)	34 社 (34 社)	34 社 (34 社)

・各年度 12 月 31 日の会員数

6. 関連団体（事業）

- 1) 日本臨床検査専門医会 第 30 回春季大会（鹿児島）5 月 15 日～16 日：中止
- 2) 日本臨床検査標準協議会 シンポジウム 1 月
- 3) 日本臨床化学会第 60 回年次学術集会（東京）10 月 31 日～11 月 1 日：ライブ・オンデマンド
- 4) 日本医療検査科学会第 52 回大会（横浜）10 月 1 日～31 日：オンデマンド
- 5) 日本臨床検査同学院（臨床検査士資格認定試験：一級，遺伝子分析科学認定士資格認定試験：初級・一級，POCT 測定認定士認定試験）
- 6) WASPaLM (Board of Directors Meeting) (サンティアゴ：チリ) 10 月 19 日～21 日：中止（延期）
- 7) ASCPaLM 第 16 回 ASCPaLM 会議（インドネシア）10 月 7～10 日：2021/1/16 オンライン開催
- 8) 認定検査技師機構、9) 日本専門医機構、10) 臨床検査振興協議会
- 11) 各種制度審議会・協議会

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

(1) 社会公共性への取組み

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。「臨床検査」は医療の根幹を成すものであり、また、個別化医療などに伴い新しい検査が急速に発展しています。今後「臨床検査」の重要性はますます高まっています。そんな中、2017年医療法等の一部を改正する法律が成立し、検体検査の品質・精度の確保に係る基準の根拠規定が新設され、2018年12月1日から施行されました。

以上の状況に鑑み、本学会は、学術集会や学会誌等での臨床検査の社会的役割について啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しています。

また、本学会の活動の基本である「臨床検査」という診療領域は、日本専門医機構により19ある基本領域のひとつと定義され、新しく基本領域臨床検査専門研修が2018年度からスタートし、2021年度にはこの制度による新たな専門医が誕生することになります。継続して、社会から求められる有能な臨床検査専門医を育てています。

(2) 学会活動

学会の事業の一環として、①2020年11月19日～11月22日にいわて県民情報交流センター（アイーナ）（盛岡）で第69回学術集会を開催、②雑誌「臨床病理」（第68巻）の年12回刊行、③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」、「臨床検査管理医」試験実施、⑤臨床検査士及び細胞検査士に係る資格認定、などを行いました。2020年1月末より全国に蔓延した新型コロナウイルス感染症においてはウイルス検査の重要性が高まったことから、「新型コロナウイルスに関するアドホック委員会」を組織し、検査試料の扱い、検査法の選択と解釈など、社会に向けた提言を多く行いました。また、新型コロナウイルス核酸検査の利用実態調査とそれに基づく情報発信を実施、日本医学会連合によるJapan CDC創設の活動に参加しました。そのほか、研究の奨励・研究業績の表彰、関係学術団体との連絡・協力、国際的な研究協力の推進など、幅広い活動を展開しました。

(3) 2020年度 日本臨床検査医学会 各種委員会活動報告

1) 学術推進化委員会（委員長：萱場広之、担当理事：矢富 裕）

①2020年度学術推進プロジェクト研究に下記2課題を採択した。

・LC-MS/MSを用いたセラミド測定系の一般検査領域への応用（森田賢史、東京大学）・薬剤耐性菌感染症のリスク低下に向けた新しい制御法の確立（村田美香、長崎大学）

②2019年度の学術推進プロジェクトに採用された3課題の中間報告が提出された。

③2018年度に採用された3課題の最終報告が第67回学術集会にて発表された。

2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：吉田 博）

①優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。

②和文誌雑誌名を69巻1号（2021年）から日本臨床検査医学会誌と改称し、サイズをA4版とした。

③電子版英文誌 Laboratory Medicine International の発刊準備として、Aim and Scope, Board member, Instruction to authors の原案を作成した。Platformはdoiが付与されるJ-STAGEと

した。

④査読委員の選定のために、学会員ホームページの充実をお願いすることとした。

3) 教育委員会（委員長：橋口照人、担当理事：山田俊幸）

①委員の改選を行った（RCPC 部門、Catch up セミナー部門、若手・女性の会部門）

②関東甲信越支部総会（2020年9月19日、総会長 松下一之 先生）に合わせて、RCPC を Webiner による中継にて開催した。参加者 130 名。

③第 67 回学術集集会にて下記を開催した。

・RCPC 1、2 (web)

・臨床検査医学 Catch up セミナー (web)

(e ラーニングのための録画は中止となった)

④e ラーニング（常設）を準備中である

4) 臨床検査点数委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）

①委員会を、8月26日、11月5日に WEB 開催で行った。各委員の確認とともに、今後の活動方針とスケジュールについて討議し、今年度は、COVID-19 対応にて、内保連の各種会議開催が遅れているため、同会の一般方針の公開を待たずに、評議員アンケート、コスト調査など、通常必要とされる委員会活動を、これまでのスケジュールを参考に行った。

②次期診療報酬改定に向けての要望について、評議員アンケートを行った。新規の提案は、3件であった。2020 年度診療報酬改定で対応のなかった案件と合わせ、改定要望として日本臨床検査振興協議会へ連絡した。

③日本臨床検査振興協議会からは、提案された項目のうち 6 件について本会でのコスト調査施行の要望が連絡され、メール稟議のうえ委員会として対応した。また、振興協議会全体での要望提案について、内保連一次提案リストに含むよう対応した。

④日本医師会・疑義解釈委員会（月 2 回開催）から、供給停止予定の体外診断薬がある場合、学会に通知がある。本委員会では、稟議のうえ意見返答を継続している。

5) 学会賞委員会（委員長：大林光念、担当理事：田部陽子）

2020 年 8 月 18 日（火）に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（三枝淳氏、伊藤隆史氏）、検査・技術賞（該当者なし）、若手研究者奨励賞（徳原康哲氏、茂久田翔氏、森田賢史氏、新井慎平氏）、優秀論文賞（谷田部陽子氏、大村直子氏、新井慎平氏）。

6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：前川真人）

①学会 HP「Q&A（酵素活性の単位 U/L について）」のシノテストによる使用許可申請を承認。

②標準化委員会作成の「学生用共通基準範囲」の株式会社医薬情報研究所によるドラッグノート 2021 へ転載申請を承認。

③学術集集会時のハイブリッド会議で、GA のハーモナイゼーション、TG の標準化の検討などが今後の委員会活動の候補となった。メール審議で、GA について日本臨床化学会糖尿病関連指標専門委員会と意見調整が必要であることを確認。

7) 精度管理委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：前川真人）

①CAP サーベイについて

参加施設は 123 で、昨年より 14 増えた。通常のサーベイに加え、CoV2 関連サーベイを緊急追加した。

②臨床検査室グローバルニュースについて

4 回刊行した。秋号より、病理、POCT ならびに NGS に関連する「CAP Today」翻訳記事を取り上げた。

③各サーベイの現況

日本臨床衛生検査技師会の外部精度調査につき状況を把握し、意見交換を行った。

8) EBLM 委員会（委員長：片岡浩巳、担当理事：大西宏明）

①第 67 回学術集会（岩手）で、シンポジウムと教育セミナーを企画、開催した。

(1) シンポジウム

- 1) 臨床検査における AI の概略－何ができるのか－（佐藤正一）
- 2) 臨床検査の数値情報を対象とした機械学習適用の課題（片岡浩巳）
- 3) 内視鏡検査における画像解析（西川 潤）
- 4) AI 技術による病理・細胞診検査における細胞判別への応用（木村文一）

(2) 教育セミナー

- 1) 臨床検査データと診療情報を用いた臨床研究 ～可能性と問題点～（古賀秀信）
- 2) 我々が AI を活用するために ～基礎知識と実例～（松村 聡）

9) 倫理委員会（委員長：横崎典哉、担当理事：古川泰司）

①本年度より委員長を横崎典哉、副委員長を松井啓隆、担当理事古川泰司とした新体制を発足した。

②第 67 回日本臨床検査医学会学術集会にて利益相反委員会合同講演会を企画し開催した。

③2019 年度に実施した「臨床検査を終了した検体の取扱いのアンケート」について臨床病理誌にて発表した。

④日本産婦人科学会からの依頼のあった「着床前診断に関する倫理審議会」に委員長が参加した。

10) 利益相反委員会（委員長：横田浩充、担当理事：古川泰司）

①学会発表時の開示スライド：5 秒程度投影するルールを啓発している。

②日本医学会から COI 管理ガイドライン一部改定版（202003）が提示された。これに伴い、当学会の HP に掲載、更新（2020.6）した。さらに、「日本医学会 COI 管理ガイドライン 2020(Digest 版)」公表のお知らせがあり、これを HP に更新した。

③第 67 回学術集会中の委員会共同企画（倫理委員会 / 利益相反委員会共催）「臨床検査医学研究を展開するために…知っておくべきこと、守るべきこと 2020」を実施した。

④2020 年度 COI 自己申告書未提出者（14 名）について催促状の対応（2020.12）を行った。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：大西宏明、担当理事：吉田 博）

①次版ガイドラインについて、2021 年末の発行を目指し、原稿締切を 2021 年 3 月末とし、執筆依頼を 2020 年 10～11 月に行った。各項目において主要なエビデンスについて、できる限り言及していただくこととした。

②2020 年 11 月 20 日に行われた第 67 回学術集会臨床検査点数委員会企画において、「臨床検査のガイドラインとあるべき臨床検査室」のテーマで吉田担当理事が発表した。

③7 月 20 日第 1 回委員会（WEB 開催）、および 11 月 21 日第 2 回委員会（学術集会現地+WEB 開催）において、次版ガイドラインの発行スケジュール・執筆者の交代・今後のガイドラインの方向性（新規追加項目を含む）・ガイドラインに対する質問および転載許可への対応等の議題について協議された。

12) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：✕谷直人）

①JLAC10 コードについて、分析物コード；新規 23 件、変更 7 件、識別コード；新規 5 件、測定法コード；新規 4 件、変更 6 件、結果識別（固有）コード；新規 127 件、変更 17 件、削除 2 件を実施した。

②2019 年度から運用を開始した「JLAC コード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にして JLAC コードの付番を行っている。2020 年は、247 件の付番を行った。

13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

①レジデントノート誌「検査の Tips」連載4年を経過する長寿コラムに。会員による投稿募集。

- ②りんしょう犬さんLINEスタンプ配信中。宣伝用クリアファイル（A4, A5の2サイズ）臨床検査振興協会より入手可。
- ③コロナウイルスに関するアドホック委員会が学会ホームページに掲載の「検査の偽陽性、偽陰性、適中率とは？」作成に協力、Google検索の上位にランクイン。
- ④広報委員会SNS班の設立準備中。若年層を対象に迅速な情報発信を狙う。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：長沢光章）

- ①今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学術集会時の11月21日に第1回の委員会を開催した。
- ②昨年実施したISO 15189認定の現状に関するアンケート調査の結果について委員から考察をいただき、臨床病理誌に投稿するよう進めている。

15) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）

- ①日本病理学会と合同WGで「がんゲノム検査全般に関する指針」策定作業を進めている。
- ②ISO/TC 215/SC 1 - Genomics Informaticsの規格文書について、コメント聴取と提出を行った。
 - ・ ISO/TS 20428 Health informatics ? Data elements and their metadata for describing structured clinical genomic sequence information in electronic health records
 - ・ ISO/CD TS23357 (Clinical genomics data sharing specification for next-generation sequencing)
 - ・ ISO/CD TS22693 (Structured clinical gene fusion report in electronic health records)
- ③Web会議を行い、遺伝子関連検査の質保証に関して現状と課題について議論した。

16) 国際委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：宮地勇人）

- ①2020年度国際学会奨励賞受賞候補者を推薦し、岡田光貴、森田賢史、藤森祐多の3氏が受賞者として決定された。
- ②新型コロナウイルスパンデミックにより延期された ASCPaLM 2020 が 2021年1月16日に ASCPaLM 2021としてWEB開催され、宮地勇人担当理事、下澤達雄委員が演者として、小柴賢洋委員長が司会として参加した。
- ③韓国 KSLM/LMCE の講演者（1名）の推薦について審議中である。

17) 医療安全委員会（委員長：藤井 聡、担当理事：大西宏明）

- ①2020年11月21日（土）14:20~16:20 第67回学術集会にてシンポジウム「医療法改正後の情勢とこれからの臨床検査に必要なこと」を開催した。
《演者：中山智祥先生、古川泰司先生、舘田一博先生 座長：藤井 聡、大西宏明》
- ②第67回学術集会会期中に医療安全委員会を開催した。
来年の委員会企画等について準備、検討した。
- ③医療事故調査制度「管理者・実務者セミナー」に藤井委員長が参加した（e-learning）。

18) 会則改定委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：東條尚子）

会則改定に係る委員会の開催はありませんでした。

19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

- ①第67回日本臨床検査医学会学術集会において「在宅医療における臨床検査専門家の役割」についてのシンポジウムを実施した。次のステップを検討する。
- ②医療安全の面から医療現場に反映させる方向で、「パニック値の運用」に関する提言をまとめ、調査研究を含めて進めている。第67回日本臨床検査医学会学術集会において「令和新時代、アウトカム向上に資するパニック値へ」の特別企画を実施した。

20) 学術集会企画委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：小柴賢洋）

- ①学術集会のハイブリッド開催につき第 67 回諏訪部集会長よりノウハウを教示いただいた。
- ②第 71 回集会長の推薦依頼はまだであるが、可能性としては北海道支部、近畿支部が候補となる。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで 20 件の新規問い合わせに回答した(1 月 1 日-12 月 31 日)。(担当：千葉泰彦 委員)
- ②2020 年日本臨床検査医学会第 32 回関東甲信越支部会シンポジウムにおいてワークライフバランス委員会の活動の報告を行った。(担当：増田亜希子 委員)
- ③第 67 回学術集会でワークショップ(第一部 RCPC チャレンジ、第二部ミニシンポジウム)を企画、実施した(11 月 22 日)。(担当：増田亜希子 委員、五十嵐岳 委員)

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（委員長：大西宏明、担当理事：小柴賢洋）

- ①2020 年 11 月 20 日(金)第 67 回学術集会会期中に委員会を開催した。委員会の発足についての経緯について報告があった後、内保連・外保連合同 AI 診療委員会におけるプレゼンテーション、国内外における AI の医療応用に関する現状について議論が行われた。
- ②当委員会から古川副委員長が参加している内保連・外保連合同 AI 診療委員会において、眼科、皮膚科とともに、臨床検査医学会から田部委員が血球分類への応用についてプレゼンテーションを行った。

23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会（委員長：柳原克紀）

2020 年 2 月 20 日に委員会を立ち上げ、下記の提言を公表した。

2020 年 3 月 1 日 新型コロナウイルスに関する提言(第 1 版)

2020 年 3 月 16 日 新型コロナウイルス検査に係わる施設基準ならびに、検体搬送・精度管理の方針【提言】

2020 年 4 月 13 日 日常検査体制の基本的考え方の提言

2020 年 4 月 17 日 COVID-19 における抗体検査についての基本的考え方

2020 年 5 月 12 日 新型コロナウイルス検査に係わる施設基準ならびに、検体搬送・精度管理の方針【提言】改訂版

2020 年 5 月 26 日 COVID-19 抗原検査についての基本的な考え方

2020 年 6 月 16 日 新型コロナウイルス核酸検査に係わる施設基準ならびに検体搬送・精度管理の方針【提言】改訂版

2020 年 7 月 31 日 無症状者に対する SARS-CoV-2 検査での注意点

2020 年 8 月 27 日 新型コロナウイルス検査の使い分けの考え方

2020 年 9 月 8 日 唾液を用いた PCR や抗原検査における検体採取や検査の注意点

24) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：✕谷直人）

今年度、委員会の開催はありません。

25) 受験・更新資格審査委員会（委員長：三宅一徳）

- ①2020 年度の臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。
- ②2021 年 1 月 1 日付けでの臨床検査管理医、学会臨床検査専門医の資格更新についての審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

26) 試験委員会（委員長：山田俊幸）

- ①第37回専門医試験を9月12日と13日に東京医科歯科大学で実施した（専門医認定試験実行委員会報告参照）。
- ②臨床検査管理医講習・試験は10月にeラーニングで実施した（管理医認定試験実行委員会報告参照）
- ③2021年度に第一回予定の日本専門医機構認定臨床検査専門医試験の実施につき議論した。

27) 2020・2021年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：東田修二）

- ①第37回専門医試験を9月12日と13日に東京医科歯科大学で実施し、新規18名、科目再受験2名が受験した。5名はCOVID-19に関わる施設事情により辞退した。
- ②判定会議を9月17日に開催し、従来からの基準（合計得点が60%以上で、かつ、40%未満の科目がなければ総合合格）に従って合否判定を行い、上記20名のうち、17名を合格とした。
- ③この判定は10月9日の臨床検査専門医・管理医審議会で承認された。

28) 2020・2021年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

- ①第12回臨床検査管理医講習会・認定試験は、eラーニングによる講習、試験（期間1週間：2020年10月12日～25日）とした。
- ②35名の受講生のうち34名を合格とし審議会に答申した

29) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2021年度専攻医募集用の研修プログラムの一次審査を行った。
- ②2021年1月付機構認定専門医更新の一時審査を行った。
- ③更新単位となる講習会の認定を行った。

2 対処すべき課題

1) 学会活動の活性化

社会の発展を支える人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発を支える臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学術集会の開催、雑誌「臨床病理」の発刊、各種委員会の開催などの活動に加え、学会賞や、学術推進プロジェクトによる会員の研究活動のさらなる推進とともに、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成も急務です。臨床検査に関する社会への啓発活動と貢献、臨床検査に関する診療報酬の適正な評価を得るための活動も重要です。また、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体や他学会との有機的な連携も重要と考えており、継続的に議論しております。

新型コロナウイルス感染症については、引き続き、感染制御と社会経済活動のための検査の利用促進、診療支援、研究、教育・啓発それぞれで活動を活発に推進していきます。

2) 社会が求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須です。検体検査管理加算(IV)、2016年から新規記載された国際標準検査管理加算などの高い評価ならびに臨床検査の品質・精度の確保に係るに関する医療法等の一部改正の施行開始に伴い、臨床検査(室)を的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医を数多く養成することは本学会の責務と考えています。臨床検査専門医をめざす多くの専攻医を確保し育成する努力が求められます。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けております。

3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

医療倫理の観点から、本学会では、2002年に「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を倫理委員会が中心となり作成、公表しましたが、「臨床研究に関する指針」が2008年7月に全面改正されたことに則って、2010年2月に新たな「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を公表いたしました。その後、2017年に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等が一部改正されたことから、再度の論議を経て、2017年12月、「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を新たに公表いたしました。

また、2012年以降の学術集会において、全発表に利益相反状態の開示を義務づけています。役員や委員会委員長就任時、学術集会等での発表および論文投稿時の利益相反の報告やその取扱い等については、「医学研究の利益相反(COI)に関する細則」に従い、2015年度より実施しています。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕、アジア臨床検査医学会連合〔Asian Societies of Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2020年12月31日現在）：209名

3 役員（2020年12月31日現在） 23名

理事	村上 正巳	（理事長）
	東條 尚子	（副理事長）
	久谷 直人	
	宮地 勇人	
	山田 俊幸	
	小柴 賢洋	
	田部 陽子	
	古川 泰司	
	前川 真人	
	吉田 博	
	大西 宏明	
	下 正宗	
	長沢 光章	
	矢富 裕	
	藤井 聡	
	諏訪部 章	
	東田 修二	
	木村 秀樹	
	日高 洋	
	大澤 春彦	
	柳原 克紀	
監事	福武 勝幸	
	古田 耕	

4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実 記載すべき事項は、ありません。

『決算報告書』

《貸借対照表》

2020年12月31日

(単位：円)

【流動資産】	164,812,508	【流動負債】	8,431,899
現金・預金	158,858,692	未払金	2,290,186
未収会費	3,406,000	前受管理医申請料	55,000
未収外部販売収入	620,928	前受管理医更新料	528,000
未収広告収入	332,200	前受会費	3,227,000
未収出版事業収入	1,166,000	預り金	470,913
未収新専門医制度関連収入	1,000	前受専門医更新料	935,000
未収ガイドライン収入	204,688	未払法人税等	70,000
未収若手の会諸費用収入	200,000	日本専門医機構預り金	855,800
未収学会専門医更新料	1,000		
未収機構専門医更新料	22,000		
【固定資産】	5,498,880	【固定負債】	6,160,000
(有形固定資産)	8,920	退職給与引当金	6,160,000
付属設備	263,550	負債合計	14,591,899
減価償却累計額	-254,630		
(無形固定資産)	305,760	【正味財産】	
電話加入権	305,760	基金	147,000,000
(その他の資産)	5,184,200	(一般正味財産)	8,719,489
敷金	3,589,200	[その他一般正味財産]	8,719,489
長期貸付金	1,595,000	一般正味財産合計	155,719,489
資産合計	170,311,388	負債及び正味財産合計	170,311,388

一般社団法人 日本臨床検査医学会

《2020年度決算報告》

一般会計

自 2020年1月1日 至 2020年12月31日

	[事業収入]	2020予算	2020補正予算	2020決算	差額
1	会費収入				
2	正会員会費収入(学生会費含)	35,000,000	35,000,000	32,024,000	-2,976,000
3	功労会員会費収入	1,000,000	1,000,000	651,000	-349,000
4	評議員会費収入	436,000	436,000	414,000	-22,000
5	賛助会費収入	3,600,000	3,600,000	3,550,000	-50,000
6	臨時会費収入	1,200,000	1,200,000	774,000	-426,000
7	小計	41,236,000	41,236,000	37,413,000	-3,823,000
8	専門医関連収入				
9	専門医受験料収入(再試験料含)	1,800,000	1,800,000	1,309,000	-491,000
10	専門医登録料収入	100,000	500,000	561,000	61,000
11	専門医更新料収入	1,200,000	1,200,000	1,133,000	-67,000
12	名誉臨床検査専門医申請料収入	110,000	110,000	21,000	-89,000
13	小計	3,210,000	3,610,000	3,024,000	-586,000
14	管理医関連収入				
15	管理医受験料収入	1,200,000	1,200,000	1,155,000	-45,000
16	管理医申請料収入	100,000	100,000	121,100	21,100
17	管理医登録料収入	350,000	350,000	308,000	-42,000
18	管理医更新料収入	500,000	500,000	319,000	-181,000
19	小計	2,150,000	2,150,000	1,903,100	-246,900
20	学会機関誌事業収入				
21	外販収入	6,600,000	6,600,000	5,411,623	-1,188,377
22	広告収入	3,500,000	3,500,000	3,780,200	280,200
23	小計	10,100,000	10,100,000	9,191,823	-908,177
24	寄付金収入				
25	JACLaSからの寄付金収入	10,000,000	0	0	0
26	小計	10,000,000	0	0	0
27	出版事業収入				
28	別冊代・超過頁代・カラー代等収入	800,000	800,000	935,000	135,000
29	許諾使用料収入	350,000	350,000	618,777	268,777
30	新専門医制度関連収入(e-leaning)	1,100,000	1,100,000	693,000	-407,000
31	臨床検査ガイドライン冊子収入	500,000	500,000	254,038	-245,962
32	検査診断事典編集・著作権使用料等収入	4,000,000	4,000,000	4,727,286	727,286
33	血尿診断ガイドライン著作権料分配金収入	10,000	10,000	0	-10,000
34	会議室使用料収入	650,000	650,000	636,000	-14,000
35	認定証等再発行手数料収入	10,000	10,000	2,200	-7,800
36	ワークライフバランス委員会WS諸費用日本医師会より	200,000	200,000	200,000	0
37	小計	7,620,000	7,620,000	8,066,301	446,301
38	補助,学術集会返戻金等,その他の収入				
39	第66回学術集会(岡山)より		5,650,265	5,650,265	0
40	特別会計より	2,000,000	2,000,000	0	-2,000,000
41	持続化給付金		2,000,000	2,000,000	0
42	小計	2,000,000	9,650,265	7,650,265	-2,000,000
43	事業総収入	76,316,000	74,366,265	67,248,489	-7,117,776

	[事業経費]	2020予算	2020補正予算	2020決算	差額	
44	学会機関誌発行費用					44
45	製作費	23,000,000	23,000,000	20,099,268	-2,900,732	45
46	送料その他	6,000,000	5,000,000	4,768,896	-231,104	46
47	小計	29,000,000	28,000,000	24,868,164	-3,131,836	47
48	事業費					48
49	支部活動補助金	2,900,000	2,900,000	2,796,500	-103,500	49
50	各種委員会活動補助金	2,000,000	1,000,000	301,866	-698,134	50
51	ハンズオンセミナー補助金	300,000	0	0	0	51
52	第68回学術集会補助金(2021)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	52
53	第69回学術集会補助金(2022)	-	0	0	0	53
54	専門医認定試験費用	2,000,000	2,000,000	1,051,474	-948,526	54
55	管理医講習・認定試験費用	500,000	700,000	595,481	-104,519	55
56	学術推進プロジェクト助成金	3,000,000	3,000,000	2,000,000	-1,000,000	56
57	国際学会参加補助金	0	0	0	0	57
58	新専門医制度関連費用	1,600,000	1,600,000	29,000	-1,571,000	58
59	会員証発行費用	50,000	50,000	21,692	-28,308	59
60	諸会費	2,500,000	2,500,000	2,018,272	-481,728	60
61	臨床検査ガイドライン冊子作製費用	30,000	30,000	28,600	-1,400	61
62	HP作成・更新費	300,000	300,000	342,500	42,500	62
63	小計	16,180,000	15,080,000	10,185,385	-4,894,615	63
64	管理費					64
65	会議費	1,200,000	1,000,000	552,629	-447,371	65
66	旅費交通費	2,500,000	2,000,000	1,085,891	-914,109	66
67	通信費	1,200,000	1,200,000	1,005,633	-194,367	67
68	MyPage管理費用	1,000,000	1,000,000	660,000	-340,000	68
69	会費決済手数料	1,800,000	1,800,000	1,266,350	-533,650	69
70	事務用品費・印刷・リース費	1,300,000	1,300,000	1,187,150	-112,850	70
71	事務委託費	300,000	300,000	264,000	-36,000	71
72	顧問料	1,000,000	1,000,000	1,056,000	56,000	72
73	交際費(慶弔費)	50,000	50,000	32,460	-17,540	73
74	事務所賃借料	6,000,000	6,000,000	5,922,180	-77,820	74
75	事務所諸経費	650,000	650,000	620,840	-29,160	75
76	事務所備品代	300,000	1,000,000	421,636	-578,364	76
77	水道光熱費	400,000	400,000	321,544	-78,456	77
78	給与・手当等	9,000,000	9,000,000	9,041,879	41,879	78
79	外注作業代	500,000	500,000	18,463	-481,537	79
80	法定福利費	1,600,000	1,600,000	1,455,954	-144,046	80
81	退職掛金	600,000	600,000	600,000	0	81
82	消耗品費	200,000	200,000	165,372	-34,628	82
83	法人登記変更等費用	50,000	50,000	24,200	-25,800	83
84	雑費(支払手数料)	300,000	300,000	279,064	-20,936	84
85	減価償却費	0	0	8,916	8,916	85
86	ワークライフバランス委員会WS諸費用	200,000	200,000	200,000	0	86
87	租税公課	0	0	12,790	12,790	87
88	予備費	0	166,265	0	-166,265	88
89	小計	30,150,000	30,316,265	26,202,951	-4,113,314	89
90	税金					90
91	法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	70,000	0	91
92	納付消費税	900,000	900,000	866,700	-33,300	92
93	小計	970,000	970,000	936,700	-33,300	93
94	事業経費合計	76,300,000	74,366,265	62,193,200	-14,106,800	94
95	事業収支差額	16,000	0	5,055,289	5,039,289	95
96	[事業外収入]					96
96	受取利息	200	200	98	-102	96
97	事業外収入合計	200	200	98	-102	97
98	[事業外経費]					98
98	事業外支出合計	0	0	0	0	98
99	事業外収支差額	200	200	98	-102	99
100	経常収支差額	16,200	200	5,055,387	5,039,187	100

《2020年度決算報告》

特別会計

自 2020年1月1日 至 2020年12月31日

	2020予算	2020決算	差額		
[事業収入]					
1	日本専門医機構貸付金利息	0	159	159	1
2	事業総収入	0	159	159	2
[事業経費]					
3	一般会計への補填分	2,000,000	0	-2,000,000	3
4	雑費（支払手数料）	330	770	440	4
5	事業経費合計	2,000,330	770	-1,999,560	5
6	事業収支差額	-2,000,330	-611	1,999,719	6
7	経常収支差額	-2,000,330	-611	1,999,719	7
8			繰越額	74,079,829	8

《2020年度決算報告》

アジア交流基金

自 2020年1月1日 至 2020年12月31日

[事業収入]		2020予算	2020決算	差額	
1	事業総収入	0	0	0	1
[事業経費]		2020予算	2020決算	差額	
2	ASCPaLM会費	12,000	0	-12,000	2
3	雑費（支払手数料）	10,000	0	-10,000	3
4	事業経費合計	22,000	0	-22,000	4
5	事業収支差額	-22,000	0	22,000	5
[事業外収入]		2020予算	2020決算	差額	
6	受取利息	30	24	-6	6
7	事業外収入合計	30	24	-6	7
[事業外経費]		2020予算	2020決算	差額	
8	ASCPaLM(第16回)関連費用	500,000	0	-500,000	8
9	事業外支出合計	500,000	0	-500,000	9
10	事業外収支差額	-499,970	24	499,994	10
11	経常収支差額	-521,970	24	521,994	11
12			繰越額	2,946,676	12

《2020年度決算報告》

学会賞基金

自 2020年1月1日 至 2020年12月31日

	[事業収入]	2020予算	2020決算	差額	
1	寄付金収入(協賛社より)	1,500,000	1,500,000	0	1
2	事業総収入	1,500,000	1,500,000	0	2
	[事業経費]	2020予算	2020決算	差額	
3	学会賞副賞	1,500,000	1,800,000	300,000	3
4	国際学会奨励賞副賞	300,000	300,000	0	4
5	雑費(支払手数料)	10,000	8,030	-1,970	5
6	事業経費合計	1,810,000	2,108,030	298,030	6
7	事業収支差額	-310,000	-608,030	-298,030	7
	[事業外収入]	2020予算	2020決算	差額	
8	受取利息	20	12	-8	8
9	事業外収入合計	20	12	-8	9
	[事業外経費]	2020予算	2020決算	差額	
10	事業外支出合計	0	0	0	10
11	事業外収支差額	20	12	-8	11
12	經常収支差額	-309,980	-608,018	-298,038	12

13 繰越額 29,999,224 13



2020年4月22日

収支決算書

開催日:2019年11月21日から11月24日

I 収入の部

1.参加料収入	一般会員 (@12,000×1,007名)	12,084,000	
	非会員 (@15,000×456名)	6,840,000	
	大学院生 (@5,000×60名)	300,000	19,224,000
2.共催収入	(@1,210,000×5社)	6,050,000	
	(@990,000×13社)	12,870,000	
	(@770,000×1社)	770,000	
	(@495,000×1社)	495,000	20,185,000
3.広告収入			874,800
4.寄付金収入			110,000
5.展示収入			1,472,108
6.情報交換会会費収入	(@3,000×234名)		702,000
7.補助金収入	日本臨床検査医学会本部		1,000,000
	おかやま観光コンベンション協会		1,000,000
8.その他収入	医学会連携フォーラム		300,000
	各種会議		162,090
	第52回中国・四国整形外科学会		35,750
9.利息			68
		収入の部合計	45,065,816

II 支出の部

1.学術集会準備費			
	印刷・製作費	1,135,871	
	プログラム作成費 (宇宙堂八木書店、UMIN)	811,000	
	通信費	139,816	
	事務費(演題処理費、ホームページ等)	2,123,715	
	展示・広告募集費	823,350	5,033,752
2.学術集会当日運営費			
	会場借料費 (岡山コンベンションセンター)	8,154,300	
	(岡山シティミュージアム)	1,158,750	
	会場設営費 (岡山コンベンションセンター)	1,122,880	
	機材・備品費	5,332,800	
	看板表示物	1,667,600	
	人件費	6,336,000	
	旅費・交通費	2,178,000	
	会合関係費 (情報交換会、各種会議)	3,418,847	
	招請費	2,320,664	
	消耗品	291,236	
	その他当日運営費	681,607	32,662,684
4.業務委託費	コンベンション社		1,602,195
5.会計事務所手数料			110,000
6.振込手数料			6,920
		支出の部合計	39,415,551
		収入-支出	5,650,265

監査報告書

2020年1月1日から2020年12月31日までの第14期事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、社員総会その他重要な会議に出席するほか、理事等から事業の遂行の状況について報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主たる事務所等において業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表及び損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び正味財産増減計算書は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は、認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

2021年3月3日

一般社団法人日本臨床検査医学会

監事

福武 勝幸



監事

古田 耕

